

週刊ヤマケイ



2018/05/17

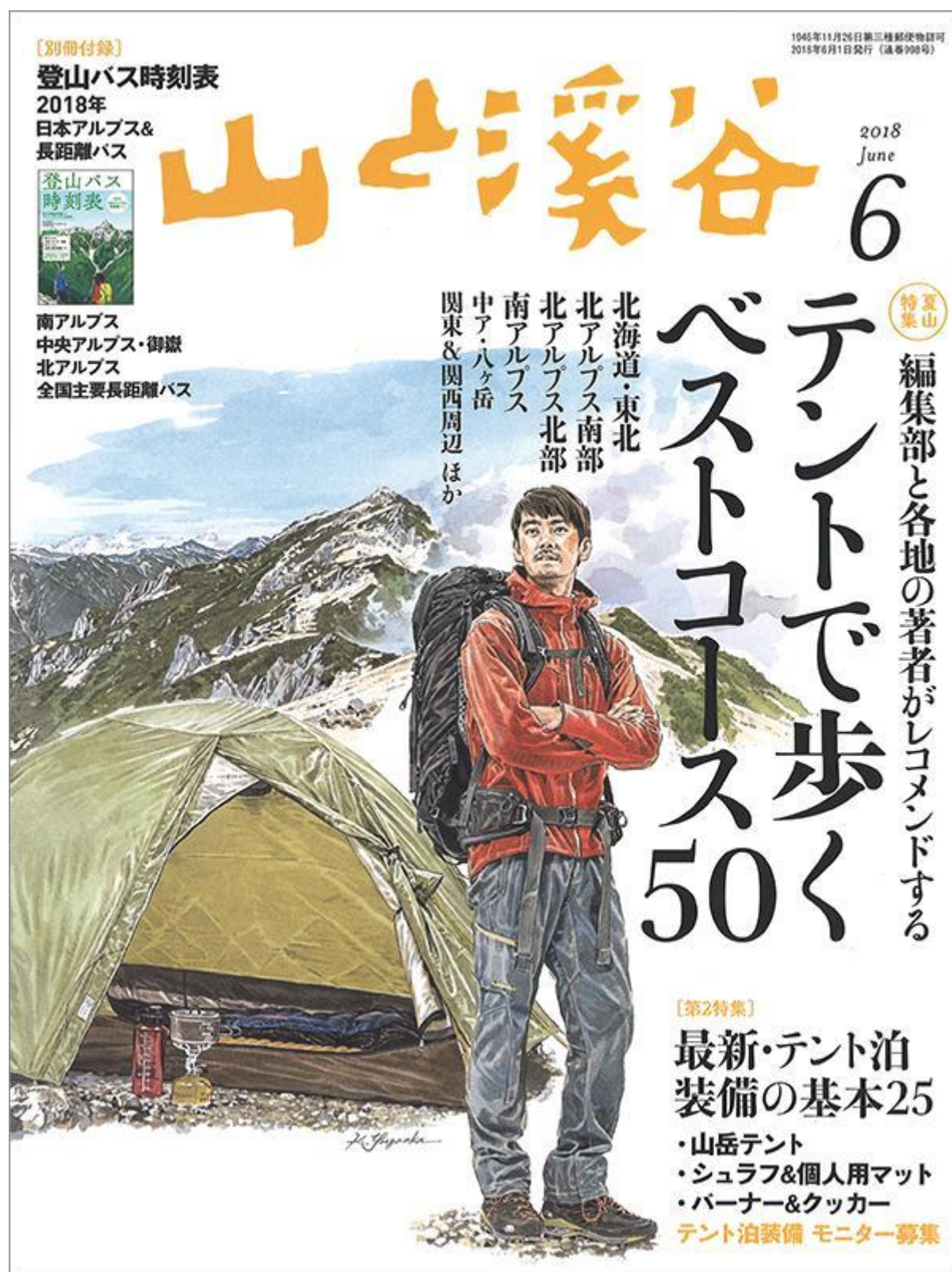


週刊ヤマケイ

新刊情報

『山と溪谷』6月号

「衣・食・住」を背負い、山と向き合う



『山と溪谷』6月号／5月15日発売／1018円＋税／A4変形判／216ページ／別冊付録：登山バス時刻表 2018 日本アルプス&長距離バス

今月号の特集は「テントで歩くベストコース 50」。自分に合ったコース選びのポイントから始まり、「北海道・東北編」「北アルプス編」「南アルプス編」などのエリアごとに編集部と各地の著者がレコメンド。「なぜそのコースがおすすめのなのか」。その理由を、現地の魅力を知っているからこそ、美しい写真とともにわかりやすく、伝えます。読むだけでも楽しくなること、間違いなし！

そして第2特集は「最新・テント泊装備の基本 25」。スタンダードなテント泊装備のそろえ方を、最新モデルとともに解説するので、これから装備をそろえる人はもちろん、ある程度そろえている人にも役立つ企画になっています。

そしてこの第2特集で紹介したテント泊装備 21点(テント8点、シュラフ1点、マット4点、バーナー5点など)について、モニター企画を実施します。詳しくは『山と溪谷』6月号 138ページをご覧ください！

『山と溪谷』6月号

<https://www.yamakei.co.jp/products/2818900998.html>



週刊ヤマケイ

登山地情報

新潟県・銀山平

越後の山々の展望を満喫



夕刻間近の荒沢岳。眼下には銀山平が見える(写真＝小瀬村 茂)



青空に映える中ノ岳、さらにこの右に越後駒ヶ岳が続く(写真=小瀬村 茂)

5月11日～12日、晴れ

本来なら銀山平から道行山(1298m)の山頂を目指して春浅い越後の山々を展望する予定でしたが、前日の雨でトレースが完全に消え、ルートが不明瞭のため断念しました。やむなく、冬季閉鎖中の国道352号線を枝折峠方面へ向かって銀山平の上部へ徒歩で向かうことにしました。除雪が終わっていない国道の上部はまだ残雪が豊富にあり、特に日陰部分はアイゼンがないと危険です。

つづら折りの登り道が続く国道からは展望が開ける場所が随所にあり、越後駒ヶ岳をはじめとした山々の展望が開けます。

石抱橋近くの公衆トイレの横に駐車(4、5台駐車可)し、そこからスタートします。途中木の間越しにどこからでも山が見えるが、1時間ほど登りきると道は大きく反れてその後は展望はできません。この日は日が傾きかけた夕刻前にいったん下山し、翌日早朝に再度上部の展望地に戻りそこで日の出を迎えました。山々が赤く染まるモルゲンロートを期待しましたが、あいにく西の空に薄い雲がかかり赤くはならず残念でしたが、雲は次第に途切れ始め空の色が濃くなってきました。

正面には荒沢岳、そして右に中ノ岳、越後駒ヶ岳と残雪の尾根が続く越後の山々の眺望と、山の中腹から麓へと続く新緑のブナ林が五月晴れの空に映えてこの時期ならではの景観でした。

(文=小瀬村茂/山岳写真工房)

参考書籍

新・分県登山ガイド『改訂版 新潟県の山』

<https://www.yamakei.co.jp/products/2809023660.html>